

2014年11月27日

熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康

ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 平野みどり

代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康

電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

阿蘇の世界文化遺産認定を台無しにする立野ダム事業再考を求める要望書

「阿蘇地域が世界文化遺産に照準」と、11月2日付熊本日日新聞で大きく報道されました。大きな期待を寄せるものですが、大きな懸念があります。それは、阿蘇の玄関口とも言える立野峡谷に、巨大なコンクリートのダムがつくられようとしていることです。

阿蘇外輪山が立野で切れて、カルデラ湖の水が流れ下り、カルデラのなかで人々は耕し、生活を始めました。立野は「火山と人との共生」のルーツにあたる場所であり、世界文化遺産の資産候補とされるべきところではあります。その立野に、高さ90mのコンクリートの巨大ダム建設などあり得ないことです。

白川郷など、過去に世界文化遺産に認定された地域の取り組みを見てみると、地域一丸となって地元の景観や自然、文化などを守り、維持しなければならないことが理解できます。

世界遺産には、その「普遍的な価値」についての保護、保全の体制がどうかということが重視され、登録後も、5年に1度の審査を受けることとなります。その結果で登録の抹消もあり、ドイツのドレスデン・エルベ渓谷は橋が架けられたため、2009年に世界遺産リストから抹消された例があります。世界文化遺産登録を目指す阿蘇にとって、立野ダムは絶対につくってはならないものです。

貴職をはじめ、「世界文化遺産」登録を申請する側が、立野ダムによる国の天然記念物である北向谷原始林の水没と破壊を隠蔽し続けていることに対しては、県民としての良心的責任行使という立場から、その事実を告発せざるを得ません。

これまで何度も要望書等を出してきました通り、立野ダムによる治水は非常に危険であり、ダムによらない治水が十分に可能です。立野ダムにはダムの下部に一辺が5mの3つの「穴」があいています。洪水時、この穴が流木や岩石等でふさがるのは明らかで、立野ダムはたちまち洪水調節不能の危険な状態となります。

また、立野峡谷の地盤を見ると東西方向の断層が集中しており、右岸は阿蘇火山から流下してきた立野溶岩です。一方左岸は、右岸側とは全く違う先阿蘇火山岩類による地盤です。今後、立野ダムが完成したあとに、阿蘇の火山活動や地震活動が活発になり、断層が動き、ダムの右岸と左岸で地盤が違う動きをした場合は一体どうなるのでしょうか。火山地帯に巨大なコンクリートのダムをつくって本当に安全なのか、国土交通省や熊本県は自信を持って説明できるのでしょうか。

事業主体である国土交通省は、住民が要望している立野ダムの説明会を開催しようとしません。国は住民に対し、立野ダムについての説明責任を果たしているとはとても言えません。そこで貴職に対し、下記2点を要請します。

記

1. 阿蘇の貴重な自然遺産、文化遺産を破壊する立野ダム計画について、熊本県として再考すること。
2. 国が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダムの転流工事（仮排水路トンネル工事）に着工しないように、国土交通省に要請すること。

以上



立野峡谷（阿蘇くじゅう国立公園内）を破壊する立野ダム仮排水路準備工事の状況
2014年11月22日撮影